

平成29年度専門学校ユマニテク医療福祉大学校

学校関係者評価報告書

学校法人みえ大橋学園専門学校ユマニテク医療福祉大学校学校関係者評価委員会は、平成30年3月15日に「平成29年度学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

平成30年3月20日作成
学校法人みえ大橋学園
専門学校ユマニテク医療福祉大学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員（出席者）

1. 早川豊治（公益社団法人三重県歯科医師会副会長）
2. 近田紀子（特定非営利活動法人三重県歯科衛生士会会長）
3. 稲垣昭義（専門学校ユマニテク医療福祉大学校学校長）
4. 北川順子（専門学校ユマニテク医療福祉大学校歯科衛生学科学科長）
5. 笹間滋代（専門学校ユマニテク医療福祉大学校歯科衛生学科副学科長）
6. 松林秀樹（専門学校ユマニテク医療福祉大学校事務長）
7. 種井紫（専門学校ユマニテク医療福祉大学校事務主任）

以上7名

2. 平成 29 年度自己評価 (平成 29 年度の学校運営等についての評価)

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	<p>評価：ほぼ適切～適切 (平均 3.2 点、16 点/20 点)</p> <p>課題：学校の理念・目的・育成人材像・特色は HP や募集要項にも明記されているが、将来構想について学生・保護者への周知がされていない。</p> <p>改善策：中長期的な視点での学校の在り方について議論をしていく。</p>
(2) 学校運営	<p>評価：やや不適切～ほぼ適切 (平均 2.75 点、22 点/32 点)</p> <p>課題：人事、給与の規定、教務・財務等の意思決定システム、業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備が十分にできていない。</p> <p>改善策：上記の規定、意思決定システム、コンプライアンス体制などについて議論し、整備していく。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：ほぼ適切～適切 (平均 3.71 点、52 点/56 点)</p> <p>課題：職員の能力開発や関係分野における先端的な知識・技能を獲得するための研修や指導力育成のための取り組みが十分にできていない。</p> <p>改善策：職員が能力開発や知識・技能の獲得のため、積極的な研修の参加、研究を行えるように環境を整える。</p>
(4) 学習成果	<p>評価：ほぼ適切～適切 (平均 3.2 点 16 点/20 点)</p> <p>課題：卒業後の経過年数が長くなるに従い、卒業生の追跡調査が困難な状態である。</p> <p>改善策：同窓会組織等を通じて卒業生の動向を調査していきたい。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：ほぼ適切～適切 (平均 3.2 点、32 点/40 点)</p> <p>課題：学生の課外活動に対する支援体制や経済支援として日本育英会の奨学金制度は活用できるが、学校独自の奨学金制度がない。</p> <p>改善策：課外活動や奨学金制度など学生の支援について検討していく。</p>
(6) 教育環境	<p>評価：ほぼ適切 (平均 3.0 点、9 点/12 点)</p> <p>課題：防災に対する体制が十分でない。</p> <p>改善策：防災に対する体制を整え、より実践的な防災訓練を行う。防災備品に関してはより実行可能な対策を取る。</p>
(7) 学生の受け入れ 募集	<p>評価：やや不適切～ほぼ適切 (平均 2.6 点、8 点/12 点)</p> <p>課題：学生募集活動は活発に行っているものの、十分な成果として表れて</p>

	<p>いない。</p> <p>改善策：募集活動において、ホームページや SNS を使用した取り組みを行っていく。</p>
(8) 財務	<p>評価：ほぼ適切～適切（平均 3.25 点、13 点／16 点）</p> <p>課題：本年度の学生募集の状況より帰属収入の低下が見込まれる。</p> <p>改善策：平成 31 年度の消費税率の引き上げにより学費の値上げも検討されるが、募集状況にも影響を与えるため学費の据え置きを検討している。</p>
(9) 法令等の遵守	<p>評価：ほぼ適切～適切（平均 3.25 点、13 点／16 点）</p> <p>課題：自己評価結果を公開していない。</p> <p>改善策：自己評価結果を公開する。</p>
(10) 社会貢献・地域貢献	<p>評価：ほぼ適切～適切（平均 3.0 点、9 点／12 点）</p> <p>課題：学校の教育資源や施設を活用した地域貢献が十分に行えていない。</p> <p>改善策：教員や学生が地域に貢献できるような活動を増やしていく。</p>

3. 平成 29 年度 学校関係者評価（平成 29 年度の自己評価についての評価）

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿って教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
(4) 学習成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているのか」	適切である。

<p>(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」</p>	適切である。
<p>(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」</p>	適切である。
<p>(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」</p>	適切である。
<p>(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」</p>	適切である。
<p>(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」</p>	適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	<p>全体的に、自己評価では、ほぼ適切～適切なレベルである。今後は、自己評価の中で抽出された課題について、少しでも解決し、質の高い学校運営を目指していく。</p> <p>また、業界のニーズ等については、企業等委員とも意見交換し、中長期的な視野で人材育成を行っていく。</p>